

# アルパック ニュースレター

地域計画・建築研究所



新鴻の湯がオープンしました

## アルパック ニュースレター もくじ

### 特集 「すまい」を考える

- ・都市居住の復権をめざして..... 1
- ・「最低居住水準」を考える..... 4
- ・炭坑住宅改良事業の新しい動き..... 5
- ・住宅からみたまちの姿..... 7
- ・一知半解..... 9
- ・由良川との共生に光明を見出した大江町.....10
- ・上尾の共同建替え事業から.....12
- ・引っ越しで感じたこと.....13
- ・城崎温泉に新鴻の湯がオープンしました.....13
- ・「京都デザイン会議」に参加して.....15
- ・'91 ニューフェース紹介.....16
- ・第2回日米沿岸域セミナーのお知らせ.....17
- ・うまいもの通信⑦ 讃岐うどん.....18
- ・新刊旧刊書評紹介「住まい方の演出」.....19
- ・まちかど.....20

NO. 47

## 都市居住の復権をめざして

尾関利勝

### 生れてから12軒目

昨年「名古屋住環境会議」事務局のお手伝いをしている。幹事会での自己紹介を機会に居住歴を整理してみた。改めて驚くことも無いが都合11回転居し、今12軒目になる。大学進学で生家を出てから結婚直前までの約15年間に9回転居し、1カ所平均1年8カ月の居住期間になる。この間は寮、間借り、木・鉄質アパートの仮住まいである。最終は団地計画のために居住経験を持つべく入居した公団賃貸にいた。公団入居中に結婚し、その後共同住宅持家層になり2回転居、現在の住まいに今の所落ち着いている。今の所とは、住まいを変わりたい願望を持っているからだ。

### 都心居住か郊外居住か

我家では常々転居の議論をするが当分実現出来そうにない。転居の第一理由は、4LDK約80㎡強の住宅では親子4人の生活には狭いこと、第二は家族が変化の少ないマンション生活に飽きてきたことだ。家族は戸建持家を希望し、私は都市的利便性を固守する。現在地（名古屋駅から地下鉄で約20分、比較的緑の多い若者の町・本山）の近くで約120㎡位の戸建が取得できれば両者の希望は一致するが、2億円は下らないから私の所得では到底不可能であり、戸建を重視するなら郊外に出ざるを得ない。一方この間の地価高騰で、近辺で供給されるマンションすら億ションになっており、買替えて転居することすら不可能だ。120㎡以上の居住水準を確保しようとするれば、公共交通の利便性をすて、自動車通勤族となって郊外住宅に住まなければならない。

### 都市住宅化する郊外住宅

最近、名古屋周辺の公的宅地開発に関係して郊外住宅地をサーベイした。一昨年には岐阜県のウッドタウン計画や愛知県桃花台NT、住・都公団高蔵寺NT関係の調査のため岐阜・愛知県下の主な住宅地をサーベイしたことがある。2年程の調査時期の差で、供給される住宅が大きく様変わりしている。

その①「宅地の狭小化」。かつて分譲地の目安は70坪前後だった。今名古屋近郊の公的宅地開発は50坪確保が供給価格から見た限界だ。その②「総2階住宅の制覇」。小規模宅地化と居住面積拡大で、総2階にせざるを得ない。その③「洋風寄棟の制覇」。2B工法の総2階は和風切妻より洋風寄棟が馴染みやすい。その④「駐車場の玄関化」。敷地が小さく、玄関も庭も駐車場も一体化した前面敷地利用やファサードになる。

その⑤「バステル調の色調」。2B工法とサイディング主流のメーカー住宅で素材・色調総2階 敷地共同利用の宅地開発例（桃山台）



玄関と駐車場の一体化例（公団香具山）



は全国一律になっている。

この風景を道路から見ると、建詰まり具合は大正～昭和初期に開発された名古屋市インナーシティの都市住宅地と建物様式を除いてそう変わりのない風景に見えてくる。このまま行けば敷地30坪総3階建郊外住宅の出現も遅くはない。大都市郊外だから郊外住宅と言う従来の概念に加えて都市型高密度住宅の概念を導入すべき時期にきている。

#### 国籍不明の町並の出現

総2階、2B工法、洋風寄棟のメーカー住宅が増えた結果、全国一律様式・工法・色調、国籍不明メルヘン調の町並が広がる。リゾート地のペンションや都市のFホテル類とデザインコンセプトを同じくする。以前、蓼科～白樺で見たペンションの風景に信州山間地の風土喪失と都市化を痛感したことがある。20世紀の住宅地の町並は全国均一なメルヘン調と21世紀人は批評するだろう。70年代初頭に小坂明子が「あなた」で歌ったマイホーム住宅が約20年後の現代を一世風靡している。住宅メーカーはコンセプトを提供した彼女を神様として拝むべきだ。戸建住宅取得者の大半が団塊の世代を中心とする買替層であり、住宅の選択決定権を持つ主婦層の年齢を考えると「あなた」の潜在的影響はあながち否定出来ない。

メーカー住宅のメリットは量産にあり、ローコストで均質な住宅を供給するところに、量産＝生産の近代化の意味がある。そのため一律化はある程度やむを得ない。しかし現実には、地域の風土にあった住宅づくりをめざす在来工法住宅が、木曾桧など良質な素材を使用して産直プレカットや流通コスト合理化などの努力により、メーカー住宅より安く供給されている。特殊な例ではなく複数の在来工法業者の事例がある。今やメーカー住宅は

安く、在来工法は高いと言う神話は間違いだと言う認識の転換が必要だ。

#### 小規模宅地と計画的ミニ開発

地価高騰による小規模宅地の集合開発例（ミニ開発）が増えてきた。複数住戸を一体的に配置、緑地に境界を設けず、駐車場を共同化するなど狭小敷地なりの集合住戸配置方式を民間でも一般化し始めている。アルバックでも10年程前になるが筆者の京都時代に石本君などと携わった公団真見ヶ丘団地の「計画的戸建住宅」で戸建集合の配置設計を体験した。地価高騰と宅地の小規模化を前提にすると郊外型の住宅開発方式として今は少なくなったタウンハウスや木造3階の導入など多様な住宅配置を導入すべき時期にきている。問題になるのは従来の区画整理型宅造だ。住戸の建て方が変わってしまった今でも旧来の70坪や開発許可の目安である50坪前後を前提とした宅造が行なわれている。そこで宅地細分化防止や、緑地確保のための壁面後退に協定や地区計画を導入するなど、現実の動向と郊外型住宅水準確保の板ばさみに悩んでいる宅地供給例もある。その悩みの解決を仕事として引き受けてしまうこともあるが、旧来型宅造の後追いでは抜本的対応に限界がある。

計画的ミニ開発を誘導して、良質な住環境を形成するために建築基準法86条（以下86条）の1団地の住宅地の摘要を積極的に進めると効果があるのではないかと考えている。開発許可は1000㎡以上の敷地だが、86条は500㎡以上に摘要しうる。この基準は通達によるので地価の高騰する昨今では300㎡（75㎡×4戸）程度に通達の基準を下げることを国でも検討できないものだろうか。これによって戸当たり敷地は小さくても良質な住環境の形成に寄与できるのではないかと考えている。

（名古屋事務所 おせき としかつ）

## 「最低居住水準」を考える

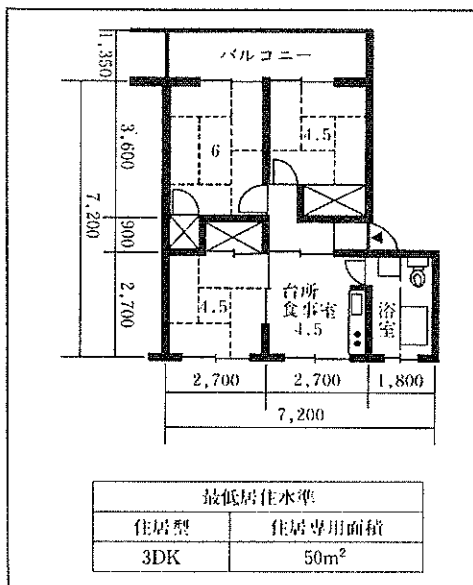
松島茂木

### 空間のゆとり

ゆとりある生活には、時間や収入のゆとりとともに、空間のゆとりが必要です。そして、それらの長さや大きさといった数字で示される指標は、その質的な面とともに、生活の中で大きな意味をもっています。最も身近な空間である住宅について、「最低居住水準」という指標のもつ意味を考えたいと思います。

国の住宅建設5箇年計画では、政策の目標値として重要な意味をもつ「最低居住水準」（他に「誘導居住水準」）を定めています。はじめて定められたのは、3期5計（昭和51～55年度）で、昭和60年度までに全ての世帯が確保しうることを目標としたものでした。内容としては、①居住室、②住宅の性能、③住戸の規模、に關することが定められており、住戸の規模については、4人世帯で3DK、50㎡とされています。

### 3DK、50㎡のプラン例



### 実感としての広さ

4人世帯、50㎡という指標を住生活のイメージに置きかえればどうなるでしょうか。例えば、夫婦と中学～高校の子供2人の世帯を想定しますと、夫婦は6畳、子供2人はそれぞれ4.5畳を専用の部屋とし、それぞれがそこで就寝、勉強、その他プライベートな生活を過ごす。居間はこの大きさでは確保できないので、家族の団欒や接客には4.5畳の食事室がとられる、といったものです。

当時、国の政策において「食寝分離」「就寝分離」が住生活上の原則とされたことは、画期的なことでした。しかし、豊かといわれる時代になり、それなりに生活の要求が高まっている今、家族団欒の居間は不可欠ではないでしょうか。また、4.5畳の個室は成人に近い子供には窮屈でしょう。「最低居住水準」が、まさに、「健康で文化的な生活を営む最低限の基準」といえるかどうか、という疑問が生じます。

しかし一方では、最低限とされている水準さえ満たしていない世帯が、住戸規模の基準からみただけでも、いまだ数多く存在しています。5期5計で、「最低居住水準未達の住居をできるだけ早期に解消し」とされ、平成2年度からの6期5計においても、その解消の目標年次を明確にしえなかったことには、多くの水準未達世帯の存在と、従来の建設計画の延長ではその解消が困難であることが反映していると考えられます。

### 生活とかがわった具体的なイメージ

住宅は、日々の生活を支え、人格を形成する最も基本的な生活空間であり、また、都市

をかたちづくる基礎的な構成単位であるといわれています。国や自治体、そしてなによりも一人ひとりの努力にもかかわらず、多くの水準未満世帯があることを正しくみて、住宅事情の改善に大きな努力を傾ける時期にさしかかっていると思われまます。

そして、そのためには、私たちが、時間の長さや収入の大きさについては、そのあるべき姿を、生活との関連で具体的にイメージしながら、さまざまな努力を行っているのと同

様に、空間についても、広さ、大きさ、高さなどを生活とかかわった具体的なイメージとしてとらえ、そのあるべき姿を日常的に追求していくことが、ゆとりある空間をつくりだす第一歩として大切なことではないか。私自身、そのことが、日常生活のなかでおろそかになりがちだったという反省を含め、その必要性を痛感しています。

(大阪事務所 まつしま しげき)

## 炭坑住宅改良事業の新しい動き

山田 龍雄

「量から質」というのは、一昔前の住宅政策のキャッチフレーズでしたが、最近やっと炭鉱住宅の改良事業においても遅ればせながら、その流れが到来しています。そこで、今まで、九州アルバックが若干構想及び計画に係った炭住改良の中で田川市と稲築町の改良事業の内容を紹介します。

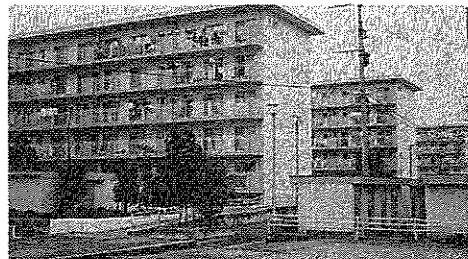
### 田川市最大の炭住地区・松原第1地区

五木寛之の「青春の門」でお馴染みの香春岳を真正面に望む位置にある当地区は、昭和10年頃に三井炭山が本格的な操業を開始してから丘陵地を切り開き、炭鉱住宅を大量に建設したところであり、改良前の炭鉱住宅は1,083戸を有していました。当地区は昭和40年以降筑豊地域で取り組まれてきた炭鉱住宅改良の流れを受け、昭和56年に基本構想策定、同年住宅改良事業を基本とした地区指定申請、翌57年事業計画申請と急ピッチで事業に着手し、今日に至っています。平成3年3月現在で計画戸数1,143戸（内地区外建設50戸）に対して472戸の建設を完了しています。その後、昭和60年の「田川市住宅審議会」において炭

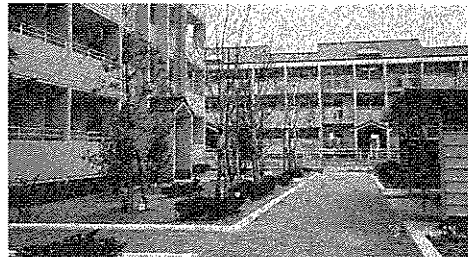
住改良を含めた市の住宅政策の基本的な考え方を検討した結果、当地区に対して次のような4つの提案がなされました。

- ①高齢者に対応した住宅地づくりとすること（ちなみに当地区高齢化率約35.0%：昭和62年末現在）
- ②将来、分譲住宅地となることを前提とした

田川市 見直し前の住棟



田川市 見直し後の住棟



地区外改良住宅の検討を行うこと。

(持ち家を促進していくこと)

③従来までの画一的な住宅地づくりから豊かな街並みとコミュニティ空間をもつ住宅地として整備を行うこと。

④多様な世帯に対応した多様な住戸タイプを導入すること。

以上のような基本方針を受け、翌年に抜本的な見直しを行いました。

その見直し計画の主なポイントは以下の通りです。

①3～4階建ての高齢者住宅を団地内のメイン歩行者動線軸に配置し、空間構成上も変化のあるようにしたこと。

②改良の促進を図るため、地区外に木造改良住宅の建設を行ったこと。

③住棟そのもののデザインも箱型から傾斜屋根等の工夫を行い、表情のあるものとしたこと等。

以上松原第1地区の建設の概要を述べてきましたが、田川市が今後炭鉱住宅の改良を進めていく上で、①市内で既に改良が完了した約2千戸の管理体制と政策家賃に対する財政負担をどのように軽減していくのか、②炭住改良で発生してきた新たな跡地の活用をどのようにしていくのか、③改良事業の対象となっていない小規模な炭住地区の整備をどのようにしていくのか等多くの課題がありますが、市全体の公営住宅の建設という観点で見れば、できるだけ持ち家取得可能な住居者に対して

稲築町 見直し前



は改良住宅の中で持ち家の導入を進めていくことが大切であろうと思います。

#### 稲築町・才田日吉第2住宅

本町の炭鉱住宅は昭和63年度現在で15地区、1,835戸であり、閉山後個人払い下げをしているため、炭鉱住宅入居率は約95%と高い状況ですが、基本構造体の老朽は著しく、また、道路や下排水の整備も十分でないため、住環境としては何等かの整備を必要とする地区でした。

当地区は面積1.35ha、対象戸数33戸と小規模であったことから、住環境整備事業の一つである小規模炭住改良事業を基本に事業計画を策定いたしました。

既に昭和59年に整備された才田日吉第1地区がいわゆるハーモニカ団地で魅力の乏しいものであったため、第2地区では炭住改良のイメージを一新すべく、これまでなされなかった次のような試みを行いました。

①住棟配置は児童遊園を中心とした囲み型とし、北側住棟は南入りタイプとした。

②歩行者の安全性を確保するため、道路は外周に回し、一般車は住宅地へ進入できないようにした。

③当地区が窪地になっていたので、南側道路からの見おろしを配慮し、南側は主に1階建てとし、北側の方に2階建てを配置している。

④田川市の松原地区と同様に住棟のデザインにおいても傾斜屋根等を導入し、変化をもたせた。

稲築町 見直し後



以上の方針をもって改良して約2年は経過しますが、その後町の担当者に聞くと入居者に次のような変化が起こったことは計画に携わったものとしては、喜ばしいことでありました。

- ・新しい住宅に住むようになり、これまで病院通いの多かった老人等の病院通いが大幅に減った。
- ・新しい団地の建設により、周辺の整備やバ

ス路線開通運動など地域づくりの意識が始めている。

- ・子供たちが友達を招くようになり、子供たちの遊ぶ姿が見られるようになった。
- ・見学者が度々訪れるので、団地全体が生き生きしている。
- ・従来駐車場のトラブルが絶えなかったが、駐車場の整備によりトラブルがなくなった。

(九州地域計画研究所 やまだ たつお)

## 住宅からみたまちの姿

笠松 明男

住宅統計調査は、5年ごとに実施される住宅に関する基本的な調査ですが、その調査項目の中に、住宅の建築時期別に整理した項目があります。ここでは、(いわゆる住宅総数ではなく)人が住む住宅について①終戦前、②終戦から昭和35年まで、③昭和36年から45年まで、④昭和46～50年、⑤昭和51～55年、⑥昭和56～60年、⑦昭和61～63年9月まで、の7区分の建設時期に分けて、それぞれ、建て方別(一戸建、長屋建、共同住宅の3区分)、構造別(木造、非木造の2区分)に住宅数、平均延床面積が集計してあります。

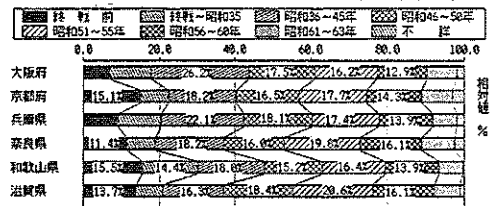
そこで、昭和63年の住宅統計調査をもとに、近畿圏6府県の建築時期別の住宅数を整理しました(図-1)。これをみると、大阪府の住宅のうち約1/4が昭和36年から昭和45年に建築されたもので7区分のうち最も多くなっています。その後、5年間ごとの住宅数はむしろ減少しています(昭和61年から63年9月までは2.5年分)。これは、この間が10ヶ年であるとしても他府県と比べ極めて高い比率です。また、昭和46年から50年までを加えて、いわゆる高度経済成長期に建築された住

宅が約44%を占めます。逆に、戦前に建築されたものは約7%程度にすぎません。一方、京都府をみると昭和36年から昭和45年に建築されたものも多いのですが、全ての区分で平均しており、特に終戦前が約15%もあります。

このような数字をみると、大阪府は万博開催(昭和45年)をテコに急速に都市化が進んだことや、京都がいわゆる歴史と伝統のまちといわれることの傍証にならないでしょうか。

他の県をみると、兵庫県は比較的大阪府と近い動きをしています。奈良県や滋賀県は昭和50年代のものが多く、近年活発に都市化が進められていることが想像できます。逆に、和歌山県は終戦前の住宅が15.5%もあり、近年の状況をもても、他府県と比べるとまだ開発が進んでいないのではないかと思います。

図-1 近畿各府県の建築時期別の住宅数比率

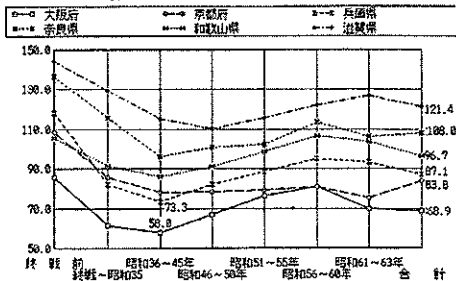




また、昭和56年から60年まではいわゆる住宅不況の時期で、この時期に建築された住宅数は、いずれの府県も前5年間の値を下回っており、数字の上でも裏づけられています。

次に、戸当たりの延べ面積の推移をみます（図-2）。まず、全住宅平均の延べ面積が100㎡を超えているのは滋賀県と奈良県で、残りの4府県はいずれも100㎡を下回っています。特に、大阪府は70㎡にもとどいていません。本誌で松島が最低居住水準について述べていますが、4人家族の最低居住水準面積が50㎡ですから、大阪府の値がいかに低いものかわかると思います。

図-2 近畿各府県の建築時期別住宅延べ面積の推移



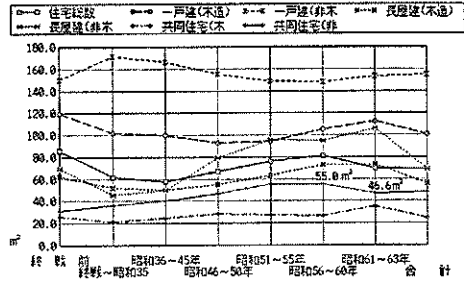
また、どの府県も昭和36年から50年までの高度成長期に建てられた住宅の延べ面積が低い値となっています。これは、戦後の核家族化が急激に進行した時期であること、政府の持家政策の中で、質よりも量が先行したことなどが原因であると思われます。この時期に建築された住宅が多い大阪府や兵庫県での住宅問題が深刻なことが想像できると思います。

さらに、近年の特筆すべき状況として、ワンルームマンション問題が挙げられます。和歌山県を除く5府県では、昭和61年から63年9月にかけて建築された住宅の平均延べ面積が、昭和56年から60年までのそれを下回っています。特に、大阪府ではその差が10㎡以上にもなり、兵庫県でも5㎡を超えています。この原因を探るため、大阪府の建て方別構造

別の建築時期別住宅数とその戸当たり延べ面積をみてみました（図-3）。

大阪府下で昭和61年から63年9月までに供給された（実はストック数なので期間中に火災などで滅失した住宅は含まれていない）住宅は約22万戸ありますが、その約7割の14.7万戸を占めるのが非木造共同住宅です。この昭和56年から60年までに建てられた住宅の戸当たり延べ面積は54.96㎡でしたが、これが46.56㎡へと大きく落ち込んでいます。これ以外の建て方、構造では増加ないし横ばいとなっています。また、供給数も2.5ヶ年で14.7万戸と前5年間、前々5年間がいずれも18万

図-3 大阪府の建て方別構造別延べ面積



戸程度に留まっていることをみても非常に大量の建築数であり、やはり、ワンルームマンションなど小規模共同住宅の影響が大きいことが想像できます。

以上のデータは既存ストックの、しかも人が住む住宅についてみたものですから、正確な分析には住宅の滅失や空き家率を考慮する必要があります。また、一般的に考えるならば、同じ時期に建築されたものなら、より狭い住宅、より住みにくい住宅から建替えが進むと考えることが自然でしょうし、終戦前の住宅などは、一部の大邸宅や農家住宅が残ったため、庶民の住宅は戦争で消失したり、その後の都市化の進行の中で除却されていったであろうことも想像に難しくはありません。

（大阪事務所 かさまつ あきお）



一知半解  
京都の都心居住——人口推移から  
松本 明

都心人口の減少は大都市に共通する問題で、近年ではその歯止めのため、「住宅附置義務制度（東京都各区）」や、「用途別容積型地区計画」等々、住宅の供給誘導施策が多数創設されています。都心政策に、「都心部にも人が住むことによってこそ、地域社会や産業、文化の健全な発展が図られる」、という視点が強まりつつあると思います。

さて、都心居住を特徴とする京都市中京区の2つの元学区の人口推移を少し遡って調べてみました。明倫学区は京都市のど真ん中、四条烏丸北西の一帯で、古くから商業中心として発展し、今日でも室町織維問屋街を擁する地区です。祇園鉾町の中心地でもあります。竹間学区は同じ中京区でも御所のすぐ南、居住機能の比重の高い地区です。

明治初期には人口密度はそれほど高くなく、明治6年、明倫が154人/ha、竹間が163人/haです。世帯人員も1世帯4人弱の水準でした。江戸期も同程度と思われます。

明治末期には、日清、日露戦争を経た産業の発展のもと、都心人口の急速な増加が進ん

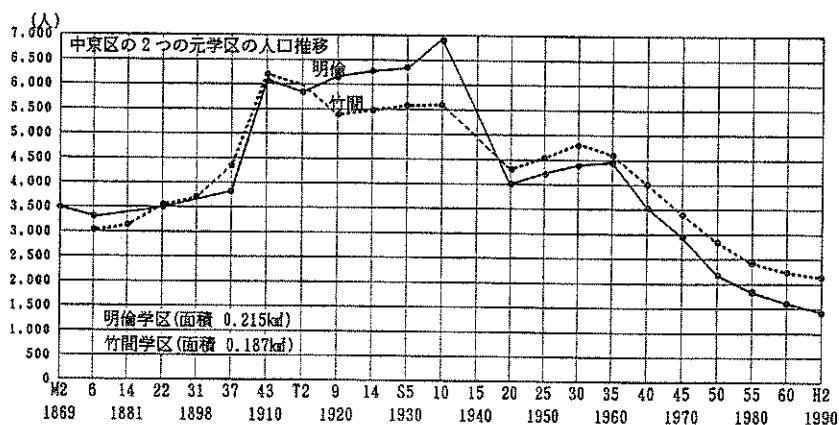
でいます。明治43年には明倫 283人/ha、竹間 331人/ha で明治6年のそれぞれ 1.8、2倍と、極めて高い人口密度となっています。

明倫ではそれ以後も増加を続け、第2次大戦前の昭和10年には 323人/ha に達します。1世帯平均世帯人員は 8.3人、人口の男性比率が65%と、多数の住み込み労働者を擁する都心産業地域の様子が読み取れます。竹間はやや減少しているものの、299人/ha と高い人口密度を維持しています。

しかし、第2次大戦後の昭和22年には、人口密度はそれぞれ186人/ha、230人/haへと急減しました。明倫では男性比率は49%に落ち込み、戦争による痛手が大きい。戦後しばらくは人口の回復傾向が見られますが、昭和30年ごろから減少に転じます。「所得倍増計画」による経済成長のもとで、都市への人口集中が進む一方、都心部は業務機能へ特化し、人口のドーナツ化が進んだ結果です。

これは今日までずっと続いており、平成2年現在の両学区の人口密度は、それぞれ66人/ha、114人/haにまで下がりました。今後どこまで下がるのか、また、政策的にはどう対応するかが大きな課題となっています。

(京都事務所 まつもと あきら)



注1)大正2年まで「京都坊目誌」より。大正9年以降は「国勢調査」より。

2)「元学区」は6・3制以前の小学校区。都心では明治期に成立。自治単位でもある。

～泰さんのあんな京都 こんな京都③～

## 由良川との共生に光明を見出した大江町

山田 泰造

大江町民の長年の悲願であった宮津～福知山間30kmの鉄道が昭和63年開通、同年8月「鬼伝説一千年祭」が全国の鬼ファンの関心を集め、約2万人という人出で賑わったと、今迄ひっそり静かであった大江町から活気に満ちた情報が次々と発信されてきました。一方、人口は依然減少しており、過疎高齢化が進行しています。この問題の根本にあると思われる由良川の治水を知るため、大江町の資料をお借りし、さらに町長佐藤克巳氏のご意見を拝聴しました。

## 大江町における治水対策

大江町域での治水工事は明治時代にはなく、大正3年から6年迄の間、1回行われたのみで、住民の陳情・請願も空しく昭和37年迄実施されませんでした。「大江町には氾濫の歴史はあれど治水の歴史なし」と訴えた先人の悲痛な叫び声が今日に至るも言い伝えられています。由良川改修計画で下流域とされる大江町～河口部約33kmは、山脚が両岸に迫り、狭長な谷底低平野で、勾配も殆どなく、砂州多く疏通能力に欠けています。地形と防災上の理由から、下流域の治水対策は暫定策として低水路拡幅工事が37年漸く着手されることとなり、大江町域内工事は20年の歳月と38億円を投じて57年に完了しました。この工事の概要は、まず河川敷内の民地44haを買収、これまでの河道の疏通力を3倍強に増やすため60～80mの川巾を100～150mに拡幅、平均4.5mの掘削、その土砂を町内低農地に運搬、積上げ（建設省河川工事）、整地、農道・排水施

設等の耕地整理、土地の換地（農林省土地改良事業）を実施したのです。国・府・町・地権者が一体となった協力により、性格の異なる二種類の事業が予算の年度、施行時期、工期等多々の問題を克服し、大雲橋水位を1.5m低下させる河道と、平均2m嵩上げにより中小洪水には殆ど冠水被害を受けない肥決な耕地約95haを生みだし、まさに一石二鳥の工事が完了したのです。舞鶴市域と河口部までの間約18kmの掘削工事は38年着工、今年度はほぼ終了する予定です。

下表のように町発足40年間に大洪水は6回記録されており甚大な被害をもたらしました。町長は、大雲橋水位9.5m前後が大洪水になるかどうかの分かれ目と考えています。低水路工事の完成により、中小洪水による冠水被害は激減しました。今後は生命財産を守るため人家の集まっている地区から築堤を行ってもらうよう要望しています。町長は57年8月と2年9月の2度の台風が大洪水をひき起さなかったという経験から、低水路工事の効果は由良川上流の大野ダムの洪水調整能力も加味され、余程の大洪水・大出水でもない限り大雲橋水位を8.5m以下に保ちうるのではという

大江町発足後の大水害（大江町誌）

水害年月日	災害名称	雨量	大雲橋水位	備考
S. 28. 9. 25	台風13号	368mm	14.5m	災害救助法発動
34. 8. 13	8.13水害	109	9.50	〃
34. 9. 27	伊勢湾台風	170	12.50	〃
36. 10. 27	10月水害	193	9.40	〃
40. 9. 14	9.14大雨	221	9.50	〃
47. 9. 17	台風20号	176	10.50	〃
57. 8. 2	台風10号	174	8.63	総1000m <sup>3</sup> /S掲載
H. 2. 9. 20	台風19号	149	8.00	〃

自信を持たれました。

3月21日、京都新聞が「由良川治水に新戦略」という表題で低水路工事に引き続いて下流域部に新しい対策を行う事になったと報道しました。建設省は大江町と同じような条件の全国数カ所の河川を「水防災特定地域」に指定し、治水対策として輪中や宅地嵩上げを行うこととし、流域市町村を含めた対策協議会を結成し、4年度中には一部事業着手することです。由良川との共生を願う町民にとって遂に明るい光明の灯が点せられるようになったのです。

#### 過疎点描 ～取材で見聞きしたこと

##### (1)人口減少と養蚕農家

26年4月の町人口11,816人、現在5,942人と減少、高齢化率26.6%と府下最高。特に養蚕農家は、27年921戸、桑畑で311ha、現在29戸・65haと戸数が1/30・面積で1/5、その減少ぶりにはげしく、また養蚕農家の離村率は一般農家より高いとのことです。

##### (2) (株)仁張鉄工所社長 仁張脩作氏の談話

大江町蓼原出身の生粋の大江人。長田野工業団地進出企業の第1号。48年操業時30名の会社も現在72名と中堅企業に成長しています。当然、大江町出身の従業員が多く、半分の36名。うち大江町からの通勤者15名。あと21名は福知山に居住。また工業団地全体の従業員は4,112名。うち大江町から通勤している者222名(工業センター 2.4.1調べ)。以上の事から工業団地の大江町出身者は、大江町から通勤している人を相当上回る人々が福知山市に移住していると推定できます。

町はウッドタウン計画を作成し、3年度から始まる府住宅供給公社の分譲住宅(1期分27戸)誘致に成功し、大きな期待をかけています。

##### (3)大江町西部区(さいべく)のUターン現象

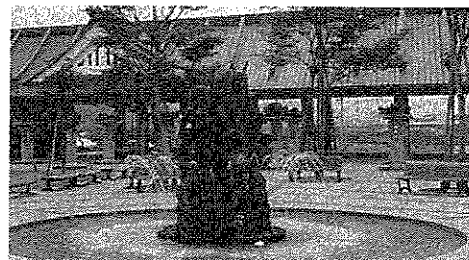
町の南西部、府道私市大江線沿いの谷筋にある金重・森野・室尾谷という小集落を合わせて西部区と呼んでいます。狭い谷間に点在する耕地は1戸当り平均約0.37ha(町0.47ha)、谷河は水質の関係で上水はもとより農業用水にも使えず道路は行き止まり道で、福知山へ直行できず、町内でも立地条件の悪い代表的な地区でした。57年サオリ峠の改良工事が行われ、約50mのトンネルによって福知山東北部に直行できるようになり、15分足らずで長田野工業団地に到達できます。ここ数年区民対抗運動会に西部区は常に上位を占め、優勝旗も何度か持ち帰るようになりました。即ち、交通が便利になり、57年以降28人ものUターンがあったからです。人口減少率も低下し、西部区に若さと活力が戻ってきたのです。

	H.2年人口	H.2/S.55年
西部区	649人	96.7%
大江町	5,992人	91.8%

町は目下、若者の定住と人口の増加を最重要事項として取り組んでおり、町民の意識改革は鬼祭を成功させました。3月22日、大江町は「活力あるまちづくり」の優良団体として全国12市町村の一つに選ばれ、自治大臣表彰を受けました。鬼瓦公園の整備、鬼伝説一千年祭などの町民のアイデアを活かしたまちづくりが評価されたのです。

(京都事務所 やまだ たいぞう)

大江駅前広場 鬼瓦公園



## 上尾の共同建替え事業から

齋藤 侑男

先月（3月）の中頃、象地域設計の三浦さんから一通の案内状を受け取りました。上尾（埼玉県）の共同建替え事業が竣工するので見学会を催すというものです。

上尾の共同建替え事業「オクタビア・ヒル」は、およそ3年程前に、三浦さんから話があって、事業の立ち上がり期に関わったことのある事業です。

3年前、東京事務所ができたばかりの頃ですが、三浦さんから再開発の仕事を手伝ってもらえないかという申し出を頂きました。

「オクタビア・ヒル」は旧中山道に面した4つの敷地、9家族の住宅を共同で建て替えるようというのですが、居住者は借地、借家が多く、周辺の商店街の連続性も途切れ勝ちな、事業としては相当に難しそうなケースでした。この事業に対して、正面から「住み続けられるまちづくり」を掲げて取り組んでこられたのが三浦氏をはじめとした象地域設計の方々です。借家人がそのまま住み続けられること、それも単なる高層マンションに入るのではなしに、といった難しい条件を地主さん達の事業計画に盛り込み、結局指定容積を使い切ることよりも投資のリスクを圧縮することで共同化事業を成り立たせたようです。

行政サイドでの指導、援助も有効に働いたように見受けられ、同時に進行していた住環

境整備モデル事業の区画街路、緑地整備を併せて行い、事業資金の応援をし、また、当初「優良再開発」で計画していた事業を、途中から都市計画決定なしの個人施行再開発に切り替えるなど、色々な工夫を試みております。

この間、三浦さんは、再開発事業の経験がないということで、新しいテーマが出て来る毎に、夫々の専門家のところを飛びまわって調べては、地元の権利者、住民のところへ返事をして回ったということです。そうして一気に再開発促進区域指定、権利変換、着工へと進み、3年で竣工を迎えることになりました。

現在、三浦さんをはじめとした象地域設計のメンバーは、「オクタビア・ヒル」の隣接地で頼まれて、今度は優良再開発事業を進めているということです。

さらにすぐ近くには、先に竣工した「コープ愛宕」があります。このビルも優良再開発事業で整備されたものです。

これらの共同建替えビルの隣接地は、原っぱのままになっていたり、家の脇をスリ抜けて表通りに出る路地に面するだけの住宅があったりで、さらには平家の屋根越しにマンションがそびえている様子が目に入ります。

住む人のためと「欲得」をはなれて走りまわる人がいて、結果として再開発が一つ、また一つと出来上がっていつているのだという感興を今更ながらに噛みしめております。

（東京事務所 さいとう ゆきお）

北東方向から見た「コープ愛宕」。既成の市街地のスケール感を受け継ぐ共同建て住宅。



同じく「コープ愛宕」を北側からみたもの。空中廊下がデッキになり、裏庭に連なる。



引っ越しで感じたこと

渡辺千秋

昨年10月に、祖父母の家へと引っ越ししました。我が家は、3世代同居世帯となりました。同居のための家の改修プランニングと引っ越しを通して、感じたことが三点あります。一つは、用途地域の違いです。

これまでの家は、建ぺい率60%容積率200%の住居地域に建っていました。引っ越し先は建ぺい率40%、容積率60%の第1種住居専用地域でした。住み比べてみると、建ぺい20%、容積140%の数字の差は、住環境の差として非常に大きいことを実感しました。具体的には、音です。率が大きくなり建物が密集すると、隣家の音が壁越しに聞こえたり、道路を歩く人の声やバイクの音がはねかえってより大きく聞こえたりします。その他、日照や通風、周辺環境など、地域による差は思った以上に明確で、暮らしは、絶えずその影響を受けていることを感じました。

二つめは、世代間の家に対する思いの違いです。同居するためには、部屋数の不足が最大の問題でした。祖父母の家は老朽化していましたので、欲を言えば、全面的に建て替えたいところでした。しかし、実際は既存の住まいを最大限に生かし、必要な部屋数を確保するためだけの増・改築にとどめました。祖父母にとって、長年住み慣れた家に住まい続けることはとても重要なことだったのです。時を積み上げてきた場所は、生活そのものなのかもしれません。それぞれの気持ちを知り、反映させることが大切であり、満足と合理性は同じではないことがよくわかりました。

引っ越しから半年が経ちました。今では、日頃の行動から将来の人生設計まで、あれこれ話し合ったことなど、すっかり忘れていま

す。ただ、今回のプランニングを通して、祖父母をはじめ家族に対して以前より関心をもつようになりました。そして、三つめに感じていることは、家族は多い方が楽しく、暮らしが豊かに思えることです。

(都市居住文化研究所 わたなべ ちあき)

城崎温泉に新鴻の湯がオープンしました

高坂憲治

4月3日、抜けるような青い空の下で、城崎温泉の七つの外湯の1つ、鴻の湯が装いも新たにオープンし、先代の鴻の湯の設計をされた西山卯三先生(京都大学名誉教授)をお迎えして盛大に完成祝賀式が行われました。

城崎温泉は今から1500年前、傷ついたコウノトリが湯浴みして傷を癒したことから発見されたと伝えられ、古今和歌集にも登場するように、古くから京の都に知られた温泉です。

その後現代まで多くの文人墨客がこの地を訪れ、その作品の中に登場しています。特に志賀直哉の「城の崎にて」は、自ら山の手線での事故により傷ついた身体を癒すために訪れた城崎を舞台に、人間の生と死に深くわけいった名作として知られています。

7年前にはこれらの城崎を愛した文人達の作品ゆかりの地に文学碑を建立し、城崎文学散歩道として訪れた人々に親しまれています。

また、円山川の支流である大谿川に沿って、木造3階建ての旅館の軒が静かなたたずまい女子浴室と庭園風呂



を見せており、大谿川に架かる石橋と両側の柳が織りなす歴史的景観は町民の自慢となっています。

このように古い歴史をもった城崎温泉は、観光客の落ち込む時期を経験しながら、昭和50年代からおこった温泉ブームとJR福知山線の電化により、現在では外湯の利用客が年間150万人に達するようになりました。

外湯は古くから共同浴場として町民や観光客に親しまれてきたもので、地蔵湯・さとの湯・柳湯・一の湯・御所の湯・まんだら湯・鴻の湯の7つがあります。外湯は町民風呂としての指定浴場と観光客が入れる一般浴場に分けられていますが、実際には観光客は7つの外湯全てを楽しむことができ、浴衣姿の浴客がカラコロンという下駄の音と共に散策する姿は城崎温泉の情緒を一層高めるものとなっています。

しかし、現在の外湯の多くは昭和30年代に建てられたものであり、町民風呂としても観光資源としても手狭となり、設備等も老朽化してきたため、城崎町は平成元年に城崎町外湯総合基本構想を策定し、外湯の見直しを行い、最も混雑度の高い鴻の湯の建替えを決定しました。

先代の鴻の湯は昭和35年に当時京都大学教授の西山卯三先生の設計により建てられたもので傷ついたコウノトリが羽を広げて休む姿を彷彿とさせるデザインで、町民や観光客に

親しまれてきましたが、昭和61年に浴室に面して庭園風呂を設けたことなどから利用客が急増した人気の外湯の1つです。

新鴻の湯は先代の倍の大きさとし、ロビーや脱衣室にゆとりをもたせると共に、先に設計した庭園風呂にも手を加え一層魅力を増しています。また、浴客が使い易い設備とするだけでなく、管理する人にも使い易い設備とすることを心掛けました。デザインは先代の鴻の湯のイメージをできるだけ残すように民家風にし、内部も素朴な感じができるようにしています。

祝賀式の後、予定外ではありましたが西山先生に、町並みや新しい温泉地のあり方について講演をしていただき、町の方々と一緒に勉強させていただきました。

城崎町はアルバックにとってもゆかりの深い町です。アルバックの創設当初からお付き合いをさせていただいており、建築に関わる新人は必ず城崎で仕事をさせていただくといわれている町です。これからも、外湯の総合基本構想に沿って城崎温泉の発展のお手伝いをしたいと思っています。

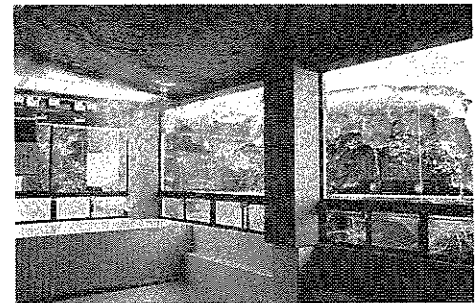
完成祝賀式が行われている時、ピッカピカの小学一年生が招待されて一番風呂に入りました。今日だけという約束で広くなった浴槽の中を泳いでいた姿は、さぞかし微笑ましいものだったろうと思います。

(大阪事務所 こうさか けんじ)

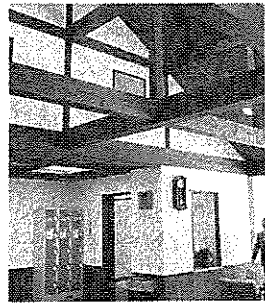
前庭と文学碑



庭園風呂に対して大きく開口部をとった男子浴室



民家風ロビー



## 「京都デザイン会議」に参加して

前田 怜 嗣

さる3月30日、「第11回デザイン会議」が京都デザイン関連団体協議会（三輪泰司議長）により京都私学会館で開催され、一般市民も交えた総勢約200名が集まった。会議のテーマは、本年度を平安建都1200年記念かつ21世紀を展望する新しいスタートと位置付けて、京都の都市デザインのベーステーマをもとに、「新・建都のデザインを考える THE STATION」であった。くだいて言うと、3月31日に設計競技（コンペ）の作品受け付けが締切られるJR京都駅改築についてであった。

基調講演では、コンペの審査委員長を務める川崎清・京大教授が「京都の都市景観デザイン」について話した。京都の景観デザインの未熟さ不十分さを強調し「これからは公共建築（新旧係わりなく）が都市の景観を形成していくポイントとなる。又、短絡的に高さのみを議論するのではなく、景観とそれがどう廻りと係わっていくか、その内容とデザインの質についても議論していくべきだ。」ということ、実際に法的にも整備されているパリと対比させながら提案した。この、パースペクティブに展開する、高さや外壁の規制は、私にとってたく感動的な内容であった。議論に終わらず、これに相当する京都独自の法規制が整備されれば、新しい展開がそこに生まれる予感がする。しかし、くれぐれも直輸入されないことを望む。

又、コンペに関しては、「フリーハンドの状態にするため高さ制限を120 mにした。駅は京都の近代化の一つと考える。市民や専門家が加わり話し合うプロセスも大事だ。」との考えをのべられた。

その後、5つの分科会に別れテーマにそっ

## 車座の分科会



て、平成の京童達の以下のような活発な意見がだされた。

「コンペの案が良く無ければ無効にして又考えれば良い」芥川賞や直木賞などは該当者なしの年もあるので建築などは、もっと厳しいスタンスで臨むべきかもしれない。そのうち、住民投票による公共建築コンペが開催される日が来るかもしれない。「開発、保存の中立主権共和国をつくる」「住民にもいたみわけが必要だ」「駅税をとれ」「まずは、プラットホームのデザインから」「駅は駅に徹せよ」「シンボルとしての京都駅舎、やるならとことんやるべきだ」「コンペはフェアプレーで」「烏丸通りの南北貫通」「タワーは日本のデザインポキャブラリーにあるのでよい」「最終電車のない駅」「ゴジラが潰す駅」「やさしい駅」「駅は全部地下にして上部は緑」等様々な意見が取り交わされた。

最後に、フランソワ・ミッテラン大統領がパリの都市再開発大プロジェクトに関して雑誌 *Grands Travaux, un numéro spécial de Connaissance des Arts* で「パリの北にはラビレットが、過去から現在にわたり勤勉な民衆達によって生きられたパリを忘却しては、未来の建設がないことを証言している」と書いているが、京都駅が忘却の記念碑とならない事を希望する。

（京都事務所 まえだ さとし）



～'91 ニューフェイス紹介～

よろしく願いいたします。

【京都事務所】

★出身地の京都は、山や鴨川があり、地下街や高層の店がないのが気に入っています。入社  
の動機は、アルバックの目的が金もうけのみ  
でないところです。 今村麻子

★理想と現実にはギャップがあって、仕事は  
現実として頑張りますが、理想の実現のため  
に仕事以外でも活動していきたい。好奇心旺盛  
です。栃木県出身。 榎田基明

★京都府峰山町、豊橋技術科学大と、のどかな  
雰囲気の中で過ごし、のんびり屋で立ち  
直りの早い性格に。アルバックの幅広い事業  
内容に興味を持ち、自分自身も幅広い人間に  
なりたと思います。 芳賀教子

★滋賀県出身ですが、大学以来6年間を過ご  
した鹿児島が第2の故郷、おおらかな風土を  
誇りに思っています。地域づくりイコール地  
域文化を高めること。 三木健治

【大阪事務所】

★兵庫県出身。広島にて自然科学（化学工学）  
と社会科学（環境経済学）をともに学びまし  
たが、どっちつかずになっているのではない  
かと不安です。 松本礼史

【名古屋事務所】

★美術系大学院在籍中は、街づくりの一番先  
っぽの部分で、彫刻の作家として地域づくり  
に関わる機会を持ちました。地域計画という  
社名にひかれて入社。愛知県出  
身。 伊藤陽子

★ネパールで感じた「笑い声は  
国境を越える」ということ、一  
宮の名鉄の車掌さんとの交流…  
…人の生活を考える職業につ  
きたいと入社。ランドスケープ  
デザイン専攻。 岡崎美穂

★ここ数年、名古屋の街もライトアップなど  
で随分美しくなりました。地元の都市計画  
（再開発や景観）に関する仕事がやりたい。  
身長 190cm、お人良しです。 福井秀樹

★生まれは唐津、岐阜育ち。京都の大学を出  
てロスにも住みました。広告等の企画畑を  
経て入社。のオールドニューフェイス。自分に  
こだわると街が見えてくる？ 吉田道子

【東京事務所】

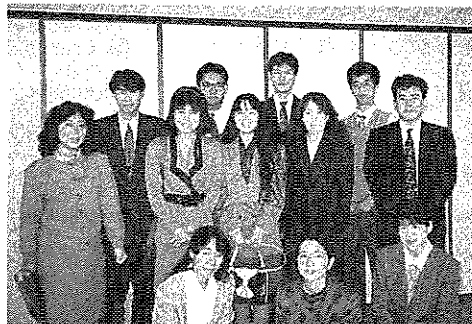
★出身地の横浜は東京と違う空気をもってい  
るところが好きですが、東京と神奈川の好き  
な部分をほとんどもっているような神戸が最  
も気に入っています。国文学専攻。 鎌田 功

★名古屋出身ですが、嫁入り道具に車は普通  
という成金(?) 習慣は嫌いです。昨年中途入  
社し、家事の手の抜き方をマスターしました。  
ご要望があれば伝授します。 平岡千佳子

★出身地の東京はショッピングにはいいけれ  
ど、自分では、町並みがきれいで、緑がたく  
さんあって落ち着く京都が好きです。“いつ  
も明るく元気に笑顔で” 山路恵美

【九州地域計画建築研究所】

★都市計画・地域計画などというものを扱う  
コンサルは地元がいなければいかん、という  
姿勢に共感して入社。ちなみに地元は下関、  
酒の肴に隣の魚市場からウニなど安く調達で  
きます（ただしフクは高価です）。高田昌幸



鎌 榎 福 松  
田 田 井 本

吉 平 山 今 三  
田 岡 路 村 木

岡 伊 芳  
崎 藤 賀

第2回日米沿岸域セミナーのお知らせ—  
市民活力とウォーターフロントの再生を  
めざして 杉原五郎

最近、関西国際空港の建設現場を海から視察したり、大阪の南港や甲子園浜などを車で見て回る機会などがありました。

大阪湾を海上からみて感じるのは、海が大変汚れていることです。甲子園浜のように陸地に近いところだけでなく、神戸沖などでもアメリカンコーヒーを流したような感じのところがあり、とても手で触れてみたいとは思えないような状況です。また、海からみた陸側の景観は、石油タンクや火力発電所の煙突、コンテナのクレーンや防波堤など、全体に灰色のイメージで大変味気のないものでした。

一方、大阪湾を陸側からみると、コンビナートの高炉の火が消え、在来型のふ頭はがらんとしていて、臨海部全体にリストラチャリング(産業構造転換)の“あらし”が吹き荒れている、といった感じでした。同時に、マリーナや商業・娯楽施設など幾つかの開発プロジェクトの動きも活発化しつつあります。

いま、ウォーターフロント(水辺空間、沿岸域)が大きな注目を浴び、大阪湾のベイエリアでは、産(経済界)、官(行政)、学(大学)の連携により、21世紀を展望したグランドデザインの策定が進められています。アルバックでも、産業の活性化、大規模遊休地の再整備、マリーナシティの計画、港湾地区及び漁港の再開発などさまざまなテーマで調査研究や計画づくりをおこなっています。ウォーターフロントのあり方については、産業・物流・生活などいろいろな角度から検討を深めていくことが必要ですが、“市民”に視点をおいてその再生の方向を見いだしていくことが強く求められると思います。

こうした状況のもとで、このたび、“市民

活力とウォーターフロントの再生”を基本テーマに、第2回日米沿岸域セミナーが開催されることとなりました。セミナーを主催する都市環境研究会(代表:塩崎賢明神戸大学助教授)では、1985年の会設立以来、国内及び海外のウォーターフロントに関する実態調査を積み重ね、60回ほどの研究会活動を通じて、『都市とウォーターフロント』(都市文化社、1988年)と『沿岸都市とオープンスペース』(同、1991年)の2冊の書物をまとめています。

今回の第2回日米沿岸域セミナーは、アメリカ合衆国から2名のプランナーと韓国から研究者1名を招き、東京、大阪、福岡の3会場で開催することになっています。アルバックは、朝日新聞やNHKなどの報道機関とともに後援団体に加わり、3会場の現地事務局を担当しており、“Think Globally, Act Locally”の精神に基づいて、先端情報の受信の場を提供することで、人的交流のネットワークがさらに広がることを期待しています。ウォーターフロントに関心のある多くの方々のご参加をお待ちしています。詳細については、杉原、畑中までご連絡をお願いします。

- 東京湾セミナー(東京都)  
5月26日(日) 機械振興会館ホール
- 大阪湾セミナー(神戸市)  
6月1日(土) 田崎ホール
- 九州セミナー(福岡市)  
5月25日(土) 電気ビル本館会議室  
(いずれも午後1時～5時)  
(大阪事務所 ずぎはら ごろう)

「コンサルタントの現状と将来展望について語る集い」を大阪事務所主催で開催します。学生・社会人を問わずご参加ください。  
日時: 6月15日(土) AM10:00～PM4:00  
場所: アルバック大阪事務所会議室  
(詳細は大阪事務所 杉原、内村まで)

## うまいもの通信⑦

讃岐うどん

森脇 宏

8年ほど前から香川県の仕事を続けています。打ち合わせ等で香川県へ行くと、必ず“讃岐うどん”を食べてきます。別に有名店でなくても、どこに入っても、大きな当たりはずれはありません。

讃岐うどんの特徴は、ご存知のように、麺の腰の強さにありますが、“土三寒六”と呼ばれる製法（季節に応じた塩と水の割合）に秘訣があり、この塩は、江戸時代に発達した代表的産物である讃岐三白（塩・綿・砂糖）の一つです。綿と砂糖が衰退したのに比べて、製塩法がイオン交換に転換した昭和30年代まで、製塩業は香川県の基幹産業の一つでありました。さらに、讃岐うどんの発達は、塩と深い関係があり、塩田での重労働の休憩時に、うどんを食べることが多かったことが、香川県で広く普及した理由といわれています。

香川県民の“うどん好き”は実に見事なものでして、街のアチコチに、喫茶店のようにうどん屋がありますし、喫茶店でも、うどんが出てきます。また、都道府県別に「うどん・そば店数」を人口当たりで見ると、第一位が香川県です。余談ながら、僅差で東京都が続いていますが、昼間だけの都民が多いことから、見せかけの数字となっています。

## 人口当たりの「うどん・そば店数」ベスト5

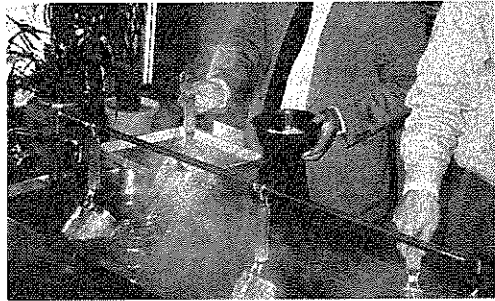
順位	都道府県名	人口一人当たりの店数
第1位	香川県	5.86店
第2位	東京都	5.82店
第3位	群馬県	5.41店
第4位	埼玉県	4.78店
第5位	栃木県	4.59店
参考	全国平均	3.31店

資料：商業統計（昭和61年）と国勢調査（昭和60年）

香川県の方に伺いますと、「一日に一回はうどんを食べないと調子が悪い」と言われる方が多く、こうした“うどん産業”の発達も理解できます。なお、「うどんは、ほとんど噛まずに飲み込んで、喉を通るのを味わう」（ビールみたい）と言われる方も多いのですが、実験してみましたが、なかなか難しく、香川県の方のように毎日食べて訓練しないと、その境地には達しないだろうと思っています。

こうした“うどん産業と文化”を背景に、セルフサービスのお店もときどき見かけられます。お店のカウンター等で、うどんの大・中・小を注文し、うどんだけ入ったドンブリを受け取り、その後は自分で麺をゆがいて、出汁と具も自分で入れる方式で、値段もたいへん安くなっています。

## セルフサービス店の雰囲気



美味しい讃岐うどんの食べ方については、好みの問題ではありますが、私個人としては、“醤油うどん”が一番美味しいと思います。これはタクシーの運転手さんに教えてもらいました。うどんのゆでたてに、出汁は入れずに、醤油、おろし生姜、刻み葱を混ぜて食べるのですが、昔の塩田労働者の食べ方であったとも言われており、腰の強い讃岐うどんにピッタリのシンプルな味わいだと思います。ただし、出汁がない分お腹が膨れませんから、“おやつ”代わりにしかなりません。

（大阪事務所 もりわき ひろし）

## 新刊旧刊書評紹介

渡辺武信著 中公新書

## 『住まい方の演出』

紹介 大西 一也

『Wの悲劇』の劇中劇の冒頭で、薬師丸ひろ子が階段の上から「わたし、おじいさまを殺してしまった！」という叫び声を響かせて駆け降りてくるが、これは、たとえば彼女が同じ平面の舞台の袖から登場するのは格段に違う効果でヒロインの登場を鮮やかに印象づけた。

これは、第3章の「階段～昇り降りの演劇性～」からの引用ですが、本著ではこのような住まいの中のさまざまな「仕掛け」や「小道具」について映画のワンシーンやミステリーの一節を紹介しながらエッセイ風に綴られています。

ドアや家具、窓、壁、庭などを通して、日本と欧米の生活様式や文化の違いについてもわかりやすく説明しています。もくじを眺めているだけでも楽しいので、いくつか紹介しますと、「テーブル～座の象徴性～」「屋根～展望の便宜と禁忌の魅惑～」「本棚～自分史の表現～」「風呂～湯の中に溶けこむ共同性～」等々があります。

あとがきで渡辺氏は、「……ここで扱った仕掛けや小道具にぼくが期待するのは、それらが表面的な生活機能を時として超えて、日常の中の小さなお祭りやささやかなドラマの契機となってきらめくことである……」と語っています。

住まいは単に「食べて寝るところ」だけで

はなく「自己表現・実現のための舞台」でもあります。しかし、長距離通勤や残業等によって帰宅してからとてもそのような「ゆとりのある時間」を持つことができない人も多いと思います。近年、よく話題にされる「余暇活動」も戸外でのスポーツやレジャーだけではなく、もっと充実した豊かな家庭生活を送ることが心の潤いにもつながると思います。

私は「季節の移ろひ」や「時の移ろひ」などに小さな感動を見いだすことができます。例えば、庭にある樹木からの季節の香り、障子に映る竹の影、ベランダから見える「東山にかかる月」、屋敷をしたくなるような春の陽射しで暖かい縁側、子どもの頃の思い出の刻まれた机やタンス……など。私にとっての住まいはその小さな感動をうまく演出してくれるものであってほしいと思います。

一方、私たちの仕事であるまちづくりにおいて、例えばタウンハウスやコーポラティブハウスなどの集合住宅やシティホール、広場、劇場などの公共的なものを計画する場合でも、創造的で夢のあるドラマチックな空間が必要であると思います。そこで、お年寄りから子どもたちまでが出会い、語り合い、そして小さなドラマが生まれることを期待できるような計画づくりをしてみたいと思っています。

(大阪事務所 おおにし かずや)

— 編集局より —

○今回は、「すまい」特集ということで、所員の仕事のかかわりも多く、特別に20ページの構成にしました。

○今年は、アルバック創立25周年を迎えますので、皆様への感謝と、豊かな地域づくりをめざし、ささやかな企画を考えております。引き続きご支援をお願いいたします。

## まちかど

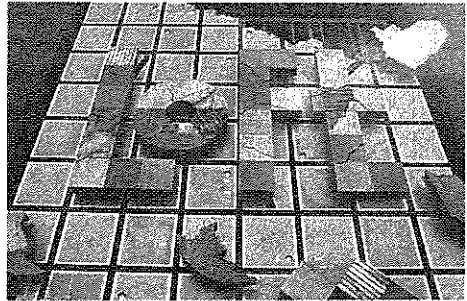
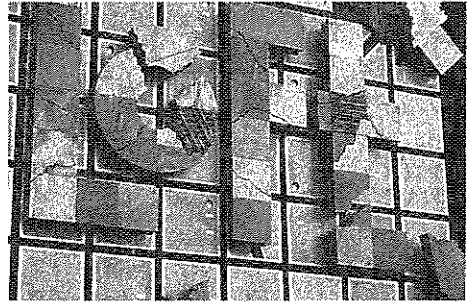
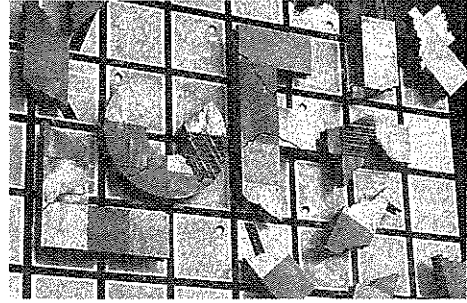
梅田LOFTのパンクなサイン

坂井 信行

無国籍風の電子音楽をバックに、巨大なロゴマークがバラバラに分解され、再び組み立てられる……。梅田LOFTのファサードサインは楽しい動きで人々の興味を引きつけている。

LOFTのある北梅田界隈は、旧国鉄貨物ヤード跡地を含むキタの再開発計画ともあいまって、今後の動向が期待されるまちである。路面型の繁華街であるミナミに対し、梅田はビルの中の繁華街として箱庭的な発展を遂げてきた。いつも同じところに同じものがある退屈さを擲捨するかのごとく、変化に富んだLOFTのサインはまさにパンクである。

サインにはインフォメーションを主体とする案内サインや、宣伝を目的とする広告サインの他に、アイデンティティの確立をめざすものもある。破壊と創造のイメージを象徴しているように見えるLOFTのサインは、古いものを排し、常に新しいものを創り出す新陳代謝のエネルギーをあたりに発散し、こ



の界隈のアイデンティティ創出に一役買っているといえる。

(大阪事務所 さかい のぶゆき)

## アルパック (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

本 都 事 務 所	☎600	京都市下京区四条通り高倉西入立売西町82 (大和銀行京都ビル8階)	TEL (075) 221-5132(代) FAX (075) 256-1764
大 阪 事 務 所	☎540	大阪市中央区城見1-4-70 (住友生命OBPプラザビル15階)	TEL (06) 942-5732(代) FAX (06) 941-7478
名 古 屋 事 務 所	☎460	名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 (ツボウチビル2階)	TEL (052) 962-1224(代) FAX (052) 962-1225
東 京 事 務 所	☎160	東京都新宿区新宿2-5-16 (霞ビル401号)	TEL (03) 3226-9130(代) FAX (03) 3226-9560
九 州 地 域 計 画 研 究 所	☎810	福岡市中央区天神1丁目15番1号 (日之出ビル6階)	TEL (092) 731-7671(代) FAX (092) 731-7673
(株)アルパックインターナショナル	☎540	大阪市中央区石町1丁目1番1号 (天満橋千代田ビル2号館9階)	TEL (06) 943-7016 FAX (06) 943-7026
(株)都市居住文化研究所	☎604	京都市中京区東洞院通六角上ル 三文字町225 (朝陽ビル4階)	TEL (075) 252-2231 FAX (075) 252-4417